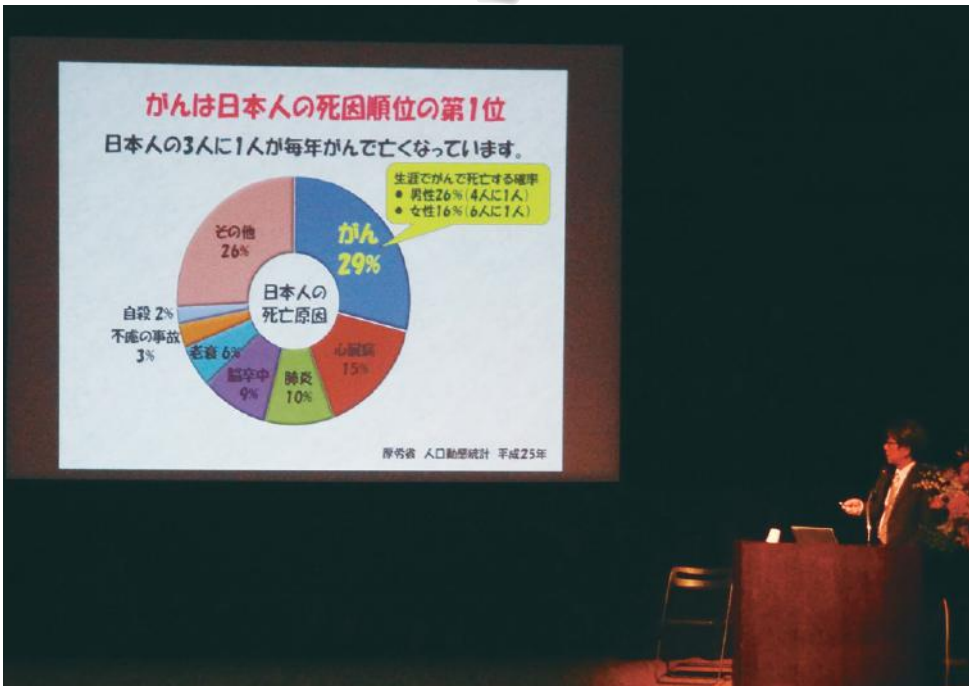
ともしび

第142号
平成28年1月1日
題字は（故）黒川利雄博士

検診の特色

- 高い精密検査受診率と高い早期がん発見率
- 専門医療機関紹介
- 高い信頼性に基づく精度管理
- 一貫したデータ管理

宮城県がん征圧イメージキャラクター



目　次

新春のご挨拶 ……2
宮城県地域がん登録65年のあゆみと全国がん登録の開始 ……3
平成28年度がん検診事業説明会並びにがん予防研修会……7
イベント報告 ……8
この課にチューモク ……10
健康まつり……11
みやぎよろこびの会活動報告 ……12
がん患者会・がん総合相談・がんなんでも相談のご紹介……13
ご寄付をいただいた方々……14
「黒川利雄がん研究基金」研究助成金希望者募集・継続寄付のお願い ……16

公益財団法人　宮城県対がん協会

新春のご挨拶

公益財団法人　宮城県対がん協会
会長　久　道　　茂

新年明けましておめでとうございます。

東日本大震災以来約５年が経ちました。しかし、その後も世界中で地球規模の自然災害が頻発し、日本でも各地に地震、集中豪雨、火山噴火、巨大台風が発生し大きな災害をもたらしました。今や、「災害は忘れた頃にやって来る」のではなく「災害は忘れなくてもやって来る」ようになったのです。加えて昨今の世界の状況は、いつ起こるともしれないテロの頻発に怯え、生活環境の中で安全安心がいかに大切かを教えてくれました。

全ての人々が健康で幸せな生活を営み、人に与えられた寿命（天寿）を全うするのが理想です。しかし、理想通りにはいかないのが、世の常でもあります。その理想に出来るだけ近づくために私どもは様々な方法を考えて実行してきました。その一つががん対策です。

日本人の死因の第一位はがんです。なにしろ日本人は生涯の中で二人に一人は何らかのがんに罹患します。そして三人に一人ががんで死亡するのです。がんのうちで主要ながんは、男女とも胃がん、肺がん、大腸がん、女性の乳がん、子宮がんです。これらのがんは、早期発見すればかなりの確率で完治するがんです。がん検診はそのためにやるのです。

宮城県対がん協会は、全国に先駆けて組織的ながん集団検診を開始し、以来がん予防事業を通じて、宮城県民のがん発生の予防とがん死を減少させるため寄与してまいりました。

それは、早期発見・早期治療のための精度の高いがん検診を普及し受診率を上げることで達成されます。そのがん検診受診者数ですが、震災前の平成２２年度の数値から激減したものの、多くの方々の努力と協力で近年は回復に向かっております。

昨年、厚労省が設置した「がん検診のあり方に関する検討会」の中間報告で、これまでの胃がん検診の方法の見直しを行い、内視鏡による対策型胃がん検診にも胃がん死亡率減少効果があるとして内視鏡検診を認めることとしました。それは良いのですが、それに加えて従来のX線による胃がん検診の対象年齢を５０歳以上に、受診間隔を２年に１回という報告を纏めました。それに対して、前橋市で行われた２０１５年度がん征圧全国大会記念シンポジウムの席上、私は、中間報告の後段の部分（X線による胃がん検診の対象年齢と受診間隔）については、科学的根拠が乏しいという理由で反対し、関係学会でのより詳しい研究と議論を深めてから決定してほしいと提案しました。それを受けて厚労省の当該検討会の最終報告では、当分の間、対象年齢も受診間隔も従来の通りで良しとする結論に修正されました。科学的根拠というのは実に大切な言葉なのです。

宮城県地域がん登録65年のあゆみと全国がん登録の開始

公益財団法人　宮城県対がん協会
がん登録室長　　金　村　政　輝

はじめに

宮城県対がん協会では、宮城県からの委託を受け、宮城県を対象とした地域がん登録を行っています。宮城県の地域がん登録は、日本で一番歴史が古く、高い精度で登録を続けてきたことに対して国内外から高い評価を受けてきました。そして、今年１月からは「がん登録等の推進に関する法律」（以下「がん登録推進法」または「法」）が施行され、全国がん登録が開始されました。65年を迎えたこれまでの宮城県地域がん登録の歩みを簡単にご紹介するとともに、新しく始まった全国がん登録についてご説明します。

がん登録とは

毎年どのくらいの人ががんで亡くなっているか（死亡数）、毎年どのくらいの数のがんが新たに診断されているか（罹患数）、がんと診断された人がその後どのくらいの割合で生存しているか（生存率）、といったがんの統計情報は、国や地域のがん対策を立案し、評価するために不可欠です。死亡数は、医師が作成する死亡診断書をもとにした国の統計があり、正確な数が把握できます。しかし、罹患数には国の統計はありません。そのため、がんと診断された数を正確に数える仕組みが必要になります。それを可能にするのが、がん登録です。がん登録は、がんと診断された人の情報を医療機関から収集し、データベースに記録･保管します。そのデータを集計することで、がんと診断された数を正確に数えることが可能です。がん登録は、がんと診断された人について、その後、例えば５年後に生存しているかどうかについても情報を収集しており、そのデータをもとにして生存率を計算することが可能です。このように、がん登録は、がんの罹患数と生存率を把握することができる大変重要な仕組みです。

がん登録の種類

がん登録は、その対象の違いから３つに分けられます。「地域がん登録」は、ある地域に住んでいらっしゃる方すべてを対象とするがん登録です。宮城県対がん協会が行っているがん登録は、宮城県を対象とした地域がん登録であり、宮城県のがん対策に活用されています。「院内がん登録」は、医療機関が自施設を受診された患者さんを対象とするがん登録です。「臓器がん登録」は、医師や医療専門職種の集まりである学会や研究会が、参加施設の協力を得て行うがん登録です。いずれも、診療の質の向上などに役立てられています。３つのがん登録の実施

主体は別々ですが、元々は医療機関での情報がもとになっており、お互いが関連し合う関係になっています。

宮城県地域がん登録

宮城県の地域がん登録の始まりは、1951 年（昭和 26 年）に遡ります。東北大学医学部公衆衛生学講座の初代教授である瀬木三雄先生が、宮城県内のがん罹患の状況について調査を行ったことがその始まりです。これは、日本で最初に行われた調査で、3 回の調査の後、1959 年（昭和 34 年）からは、宮城県全域を対象とする地域がん登録事業となり、以後、継続的なデータの収集が行われるようになりました。ちょうどこの頃、世界的にも欧米諸国を中心として地域がん登録が開始されるようになりました。日本でも、原子爆弾が投下された広島市と長崎市で、地元医師会と原爆傷病調査委員会によるがん登録が 1957 年（昭和 32 年）、1958 年（昭和 33 年）と相次いで開始されました。

現在、宮城県地域がん登録は、宮城県対がん協会が宮城県からの委託を受けて実施しています。データを収集する方法は、医療機関からの届出と、スタッフが医療機関に出向いて診療録から必要な情報を抽出し、データを収集する方法があります。後者を「出張採録」といいますが、宮城県では、出張採録を積極的に行っており、高い精度を持つがん登録と評価されています。

功績をたたえられ表彰

2012 年（平成 24 年）には、世界のがん罹患統計に関するデータブックである「五大陸のがん罹患」に、第 1 巻から継続してデータを提供してきた功績をたたえられ、世界保健機関（WHO）の関連機関である国際がん研究機関（IARC）と国際がん登録協議会（IACR）より表彰を受けました（写真 1，2）。このとき表彰されたのは、12 ヶ国 17 登録で、日本では宮城県だけでした。

写真 1.　IARC および IACR より授与された賞状

International Agency for Research on Cancer
World Health Organization
International Association of Cancer Registries

International Association of Cancer Registries
Annual Meeting Cork, Ireland
17 - 19 September 2012

This is to recognize the achievement of

Miyagi Cancer Registry

in providing datasets for all ten volumes
of "Cancer Incidence in Five Continents"

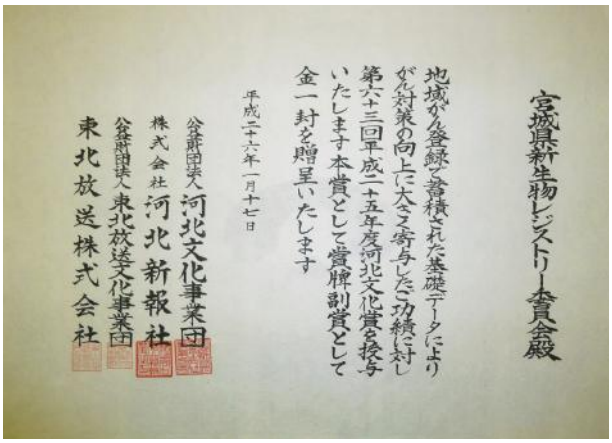
David Forman
Section of Cancer Information
IARC

Roberto Zanetti
President
IACR

写真 2.　IARC および IACR より授与されたトロフィー

2014 年（平成 26 年）には、地域がん登録によりがん対策の向上に寄与した功績により、宮城県地域がん登録の運営にあたる宮城県新生物レジストリー委員会（会長：嘉数研二宮城県医師会長）が第 63 回河北文化賞を受賞しました（写真 3，4）。1 月 1 日の河北新報に受賞の記事が大きく掲載され（写真 5）、宮城県地域がん登録の価値が広く県民に知られる大変貴重な機会となりました。

写真 3.　第 63 回河北文化賞の賞状


宮城県新生物レジストリー委員会殿

地域がん登録で蓄積された基礎データにより
がん対策の向上に大きく寄与した功績に対し
第六十三回平成二十五年度河北文化賞を授与
いたします本賞として賞牌副賞として
金一封を贈呈いたします

平成二十六年一月十七日

公益財団法人 河北文化事業団
株式会社 河北新報社
公益財団法人 東北放送文化事業団
東北放送株式会社

写真 4.　第 63 回河北文化賞の盾

写真 5.　河北新報の記事（平成 26 年 1 月 1 日から）

不断の努力 東北照らす

第63回 河北文化賞

地域がん登録によりがん対策の向上に寄与

宮城県新生物レジストリー委員会

医療機関から集めた患者情報の徹底作業を進める「宮城県新生物レジストリー委員会」のスタッフ＝県対がん協会がん登録室

日本人の死亡原因第1位を占める「がん」。集団検診の有効性などがん対策を評価するには罹患（りかん）率、生存率といった基礎データが欠かせない。データは患者の年齢や性別、住所、診断名などを一つ一つ登録した「がん登録」の分析で得られる。

宮城県のがん登録はスタッフが主要病院を訪ねて直接症例を集めていることから、登録漏れが約10％にとどまり国際的な評価が高い。この事業を担うのが東北大と県、県医師会で構成する「宮城県新生物レジストリー委員会」。県内の主要約30病院の協力を得て年間約2万件の情報を登録している。県対がん協会がん登録室のスタッフは6人。複数病院に通院する患者の情報を整理する「名寄せ」の作業なども担っている。

情報活用 全国基準に

新生物レジストリー委員会」だ。

県内のがん登録は、東北大医学部初代公衆衛生学講座教授の故瀬木三雄氏が全国に先駆け1959年に始めた。71年に事業を県に移管する際にレジストリー委員会を設立した。現在は、県対がん協会（仙台市青葉区）のがん登録室が実務に当たる。

瀬木氏は戦後、旧厚生省時代に母子健康手帳を考案した公衆衛生の権威。レジストリー委員会長で東北大学院医学系研究科の辻一郎教授（公衆衛生学）は「やがて経済成長に伴い、がんが死亡原因の主流になると見込んでいた」と瀬木氏の高い先見性を評価する。

登録された情報は県民のがん予防に役立てられているだけでなく、乳がん検診へのマンモグラフィー導入の根拠として利用されるなど国のがん対策にも貢献する。

2013年12月には国が登録情報を一元管理する定めの「がん登録推進法」が成立し、宮城のがん登録は全国基準になった。

このように高い評価を受けている宮城県地域がん登録のデータは、がんの研究にも広く活用されています。「評価なくして対策なし、登録なくして評価なし」は、宮城県対がん協会会長・久道茂先生の言葉ですが、がん対策の評価と立案にもデータが活用されています。宮城県は、がん検診の発祥の地ですが、がん検診に関する評価研究も活発に行われており、宮城県地域がん登録のデータが活用されています。

地域がん登録の課題

2012 年（平成 24 年）に東京都が、2013 年（平成 25 年）に宮崎県が地域がん登録を開始し、全国 47 都道府県すべてで地域がん登録が実施されています。しかし、これで日本全国のがんの罹患数が計算できるというと、実はそうではありません。例えば、データの収集は、医療機関からの協力に基づき行われていますが、義務化はされていませんので、データの漏れがあります。各都道府県独自の事業で、お互いのデータを共有していませんので、他県で診断・治療を受けている人のデータは収集できません。複数の県の医療機関を受診している人のデータについては、重複している可能性があります。県外へ転出した人の場合、その後の生存に関する情報を収集することは困難です。スケジュールも進捗状況も県毎に異なっているため、全国のデータを集めて見るのにもかなりの時間を要しています。つまり、日本全国のがんの罹患数と生存率については、正確な情報をタイムリーに得ることは難しい状況でした。

今年１月から全国がん登録が開始

今年１月からがん登録推進法の施行により、日本全国をカバーする全国がん登録が開始されています。全国がん登録では、すべての病院と都道府県知事が指定した診療所が、がんと診断した人の情報について届出を行います（図１）。都道府県のがん登録室では、それぞれの医療機関から届出された情報を審査し、同じ人の同じがんの情報はひとつに整理し、国に提出します。国立がん研究センターには、全国がん登録データベースが設置されており、ここでデータが集約されます。さらに全国の市町村から得た死亡情報とも照合され、生存確認情報として情報が追加され、一元的に管理されます。各都道府県では、これまで収集してきた地域がん登録の情報がありますが、さらに国から提供された全国がん登録データベースの情報を合せて都道府県のデータベースとして整備します。

国、都道府県のデータベースの情報は、国、都道府県、市町村が、がん対策やがんの調査研究のために用います。届出をした病院・診療所は、届出した人の生存確認情報について提供を受けることができます。がん医療の向上のためには、各医療機関が自施設の治療成績を計算し、評価に用いることが重要ですが、これまで、多くの医療機関では、自施設を継続して受診している患者さん以外については、生死の確認が難しく、正確な治療成績を計算することができませんでした。今回、届出をした病院・診療所に対する生存確認情報の提供が制度化されたことにより、各医療機関で正確な治療成績を計算することができるようになります。この結果は、院内がん登録や臓器がん登録にも反映されるので、がんの診療の実態についての情報提供の推進、がん医療の向上に役立てられることが期待されています。

なお、法では、情報の適切な管理、情報を取扱う職員等の秘密保持義務が明記されており、秘密保持義務に違反した者は懲役または罰金に処せられることとなっています。

終わりに

今年１年間に診断された人の届出は、来年末までに行われることになっており、最終的に国で集計値を発表するのが、2019 年３月頃と見込まれています。全国がん登録の開始に伴い、どのような集計結果が得られるのか、その結果が待たれるところです。また、今後、全国がん登録の精度の高いデータを活用したわかりやすいがん統計情報の提供、がん医療やがん対策に関する研究がより一層進むことが期待されます。

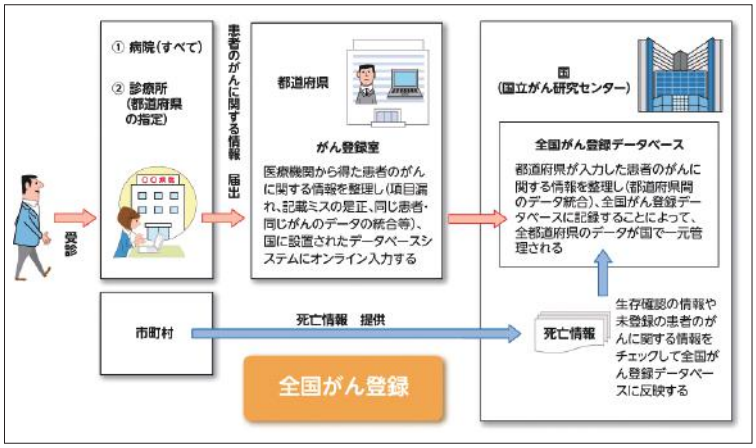
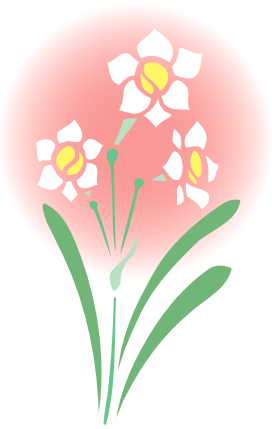


図 1. 全国がん登録
（がん情報サービス（http://ganjoho.jp/reg_stat/can_reg/national/about.html から）



平成28年度がん検診事業説明会並びにがん予防研修会

事業説明会

平成28年度のがん検診事業説明会が、市町村及び事業所の担当の方々に参加をいただき10月2日（金）にフォレスト仙台において開催されました。久道会長の挨拶に始まり、加藤事務局長から平成28年度における各種がん検診計画について、一次検診から精密検査、その後の事後管理まで一貫した体系で高い精度の検診を継続して実施することを基本として、検診計画を策定している旨を説明いたしました。その後、がん検診センター渋谷所長から「これからの胃がん検診について」と題して、現在検討されている、胃がん検診の実施方法等に関する最近の状況についての説明を行いました。

がん予防研修会

がん検診事業説明会に引き続き午後からはがん予防研修会がありました。今年の研修会はお二人の先生を講師に招き、講演をしていただきました。はじめに東北大学病院消化器内科講師の小池智幸先生から「胃がんの予防と診療の最前線」と題しお話をいただきました。胃がんの予防としてピロリ菌に感染していることがわかれば、除菌療法を検討し、定期的な胃の検診を受けることと、ピロリ菌感染の有無にかかわらず、禁煙する、高塩分食品のとり過ぎに注意する、野菜、果物が不足しないようにするなどの話に加え、早期発見すれば、内視鏡治療のみで根治可能との内容をわかりやすく講演していただきました。

また、東北大学大学院医学系研究科公衆衛生学分野教授の辻一郎先生からは「宮城県がん予防対策特別調査事業について」の講演をしていただきました。この調査は、がんの一次予防、二次予防両者を含めた適正な予防対策を講じるための情報を得ることを目的として、平成2～4年度に県内14町村の40～64歳住民全員約5万人を対象に、ライフスタイルに関するアンケート（喫煙・飲酒・食生活・健康状態など）、パーソナリティに関するもので、規模･追跡の点で国内有数の研究資源であること、がんの危険因子･予防因子の解明、パーソナリティと健康、東日本大震災の健康影響の観点からも、今後さらに追跡を続ける必要があるとの大変興味深い話をしていただきました。

がん講演会

平成 27 年度がん征圧月間行事の「がん予防パネル展」及び「がん講演会」が青葉区大町にある仙台市戦災復興記念館記念ホールにおいて開催されました。

記念ホールロビーで行った「がん予防パネル展」では、パネルや模型等の展示を行った他、胃ファイバースコープの操作体験や顕微鏡でがん細胞を覗いてもらったり、乳房の視触診模型を使って自己検診法を体験していただきました。

「がん講演会」では、当協会がん検診センター副所長の加藤勝章先生による「ピロリ菌感染と胃がん検診」と題して講演が行われました。胃がんの多くはピロリ菌が原因といわれている。しかし、ピロリ菌感染のある方が必ず胃がんにかかるわけではない。また、除菌治療には胃がんの発生リスクを 60 ～ 70% に抑制する効果があるといわれているが、除菌をしても胃がんはゼロにはならない。毎年必ず検診を受けて胃がんの早期発見・早期治療に努めることが大切ですとの話がありました。

がん予防パネル展の様子

加藤先生によるがん講演会

一番町啓発行進

9 月 6 日（日）恒例となりました啓発行進がありました。当日は天候も心配されましたが、行進する時には雨もやみ、街ゆく多くの方々にビラ配りと「がん検診を受けましょう！」のＰＲを声高らかにシュプレヒコールしながら広報しました。今年も宮城県、仙台市の担当の方をはじめ、宮城県地域婦人団体連絡協議会・みやぎよろこびの会・がん協定企業の方々、そして当協会職員を含め約 150 人が隊列を組みながら、約 1 時間をかけて行進しました。この行進は今回で 7 回目となりますが、まだまだ受診率は県の目標値には届かない状況です。今後も一人でも多くの方々に「がん検診」を受診していただくようお願いいたします。

総勢150名でシュプレヒコール

ピンクリボンスマイルウォーク仙台　2015

乳がんの早期発見・早期治療の大切さを訴える「ピンクリボンスマイルウォーク」が10月31日（土）に勾当台公園市民ひろばで開催されました。昨年は秋晴れでしたが、今年は曇り空の肌寒い天候の中での開催となりました。

当日は、仙台開催10周年で5キロと10キロのスペシャルコースに2,150人が参加し、歩きながら乳がん検診の大切さをアピールしました。特に10キロコースでは、楽天koboスタジアム宮城に給水所を設置し、例年以上に楽しいウォークとなりました。

イベントでは、ベガルタ仙台チアリーダーズ、楽天ゴールデンエンジェルス、89ERSチアーズの皆様の華やかな演技、センダイガールズプロレスリングの笑いありの準備体操、そして、モモ妹、ベガッ太、ティナ、クラッチーナ、ぐりりーず、かほピョン、むすび丸、まさむね君の着ぐるみちゃんたちもじゃんけん大会に参加したりして会場内に笑顔と癒しを与えてくれました。

また、午後には、漫才師の宮川大助・花子さん、東北大学の多田先生による乳がん検診の大切さを伝えるトークショーが開催され、参加者が熱心に耳を傾けていました。

リレーフォーライフ・ジャパン・みやぎ2015

8月22日（土）朝まで小雨状態で雲行きが悪く、時折晴れ間という中での開会式でしたが、協会からの多くの有志の方々に参加していただき、24時間「思い」のリレーがスタートしました。今までのリレーフォーライフは、名取市、富谷町の郊外会場となっていましたが、今年は仙台市中心部の錦町公園での開催となりました。

開会式から心配していた雨は当日夜半から本降りになり、夜半から早朝に掛けて、会場は長靴で歩くような状態となり、どうなるかと心配しておりましたが、協会職員をはじめ多くの方々に協力をいただき途切れることなく、フィナーレを迎える事が出来ました事に感謝申し上げます。

この様な悪天候にもかかわらず参加していただいた職員の「思い」を絶やさず、これからの「対がん活動」に職員一丸となって取り組んでいく思いを感じたイベントでした。

この課にチューモク第3弾!!　看護課紹介

みなさん、こんにちは。今回は看護課の紹介をさせていただきます!!

看護課は、保健師、看護師総勢38名で、対がん活動の基本である、一次予防（がんにならない生活をする）、二次予防（早期発見・早期治療）、三次予防（がんの再発を予防する）、これら三つの柱を県民の皆さまに提供するため、センターや県内全域の出張業務に日夜励んでおります！

健康教育・講話

保健推進員さんや住民の皆様に正しいがん情報やがん予防についてのお話を担当します。ご希望の場合はお気軽にご相談ください。

小・中学校への出前授業

宮城県の委託を受けてがん予防の出前授業をしています。がん予防は子供の頃からの生活習慣が大切です。こどものまなざしは真剣でキラキラ！

出張検診業務

今日は乳がん検診！これから受ける検診の内容についてわかりやすく説明します。

看護課　全員集合！！！

学会発表・研修会参加

検診データや日頃の仕事の成果をまとめて発表をしたり、最新の情報を得るために積極的に研修会に参加しています。

各種検診を実施しています

当センター内視鏡室です！

保健指導・健康相談

健診の結果に対する生活指導や、精密検査に該当した方へ安心して精密検査を受けられるよう説明します。

術後のお悩みはありませんか？どんな生活に注意したらよいですか？など様々な悩みの相談を行っています。電話でも受け付けています。

宮城県がん総合支援センター事業も行っております。専任の看護師が“がん相談”を担当しています。

県民の皆様に“今日の講話を聴いてよかった”、“検診を受けてよかった”と言っていただけることが何よりのパワーになります。皆様が笑顔でいられますよう、これからも精進してまいります！

健康まつり

今年も県内の８市町村で健康まつりが開催され、宮城県対がん協会は「がん予防コーナー」としてブース参加をさせていただきました。パネルの展示の他、顕微鏡でがん細胞を覗いたり、乳がん触診模型の体験をしてもらったり、また今年作成した臓器あてクイズが好評で幅広い年代の方々に楽しんでいただきながら、がんの早期発見・早期治療の PR に努めました。

臓器あてクイズ：こっちかな？

特に今年初参加した松島町の「まつしま産業まつり」では、屋外でのブース展示でしたが、産業まつりとあって出店が数多く、その一角に「健康まつり」として町の健康づくり班と当協会ブースを設営し参加。通常の健康まつりとはまた違った形で、松島の特産品なども販売され多くの方々が訪れて大変賑いのあるイベントとなりました。

実施日	会　場
１０月　４日(日)	石巻市遊楽館
１０月１０日(土)	柴田町保健センター
１０月１７日(土)～１８日(日)	大崎市古川保健福祉プラザ
１１月　１日(日)	松島町文化観光交流館
１１月　８日(日)	陶芸の里スポーツ公園
１１月１５日(日)	色麻町保健福祉センター
１１月２９日(日)	丸森町まちづくりセンター

みやぎよろこびの会活動報告

第48回みやぎよろこびの会大会

10月15日（木）紅葉間近の鳴子温泉「幸雲閣」において、第48回みやぎよろこびの会大会が開催されました。当日は天候にも恵まれ、宮城県保健福祉部疾病・感染症対策室小泉みどり室長、当協会久道会長をはじめ、山形まめの会、福島しゃくなげ会の方々を来賓に迎え、また多くの会員の方々に出席をいただき盛大な大会となりました。今回の大会は今までとは違った形を企画、１泊２日での実施となりました。大会では、会長表彰３名と術後10年を経過した５名の方々に賞状や記念品が贈呈されました。そのあと第二部として宮城県がん総合支援センターの谷川相談員を講師に迎え「毎日を楽しく過ごすための私の10ヵ条」と題した講話がありました。また第三部の情報交換会では、各支部の芸達者が歌や踊りを披露し、会場は大いに盛り上がった大会となりました。

支部活動

ピンクリボン街頭キャンペーン

9月27日（日）ピンクリボン街頭キャンペーンがあり、今年も仙台支部より２名が参加、一番町四丁目買物公園の三越前で買い物客を中心に啓発物品（チラシ・ティッシュ・ピンクリボンバッチ）を配布しました。

丸森支部「いも煮会」

10月24日（土）丸森支部主催の「いも煮会」が今年も丸森町不動尊公園キャンプ場で開催されました。当日は天気にも恵まれ、すばらしい景色の中、会場のいたるところでは多くの人がいも煮を楽しんでいました。本部からは伊藤副会長、馬場副会長も参加され交流が図れたことはよかったと思います。

瀬峰支部総会

11月19日（木）瀬峰支部の総会が栗原市瀬峰公民館で開催されました。石川支部長が各会員の近況を聞きながら、体調に留意し、これからの支部活動を継続できるようにと話され終始和やかな雰囲気での総会となりました。

宮城県内のがん患者会・サロンがつながりました！

現在宮城県内では30余りのがん患者会やサロンが、地域や病院内で活動を行っています。今回、その中の21団体が参加し、「がんになっても自分らしく生きることの出来る宮城県」を目指して、『がん患者会・サロン ネットワークみやぎ』が設立されました。これを記念し10月27日、仙台市情報・産業プラザ（アエル）にて、発足式及び記念講演会を開催いたしました。当日は、患者さんやご家族、医療関係者、行政の方など、約90名の参加者のもと、ネットワークの活動目標の説明や、参加団体の紹介などが行われました。また、ご自身も悪性リンパ腫の患者であるグループ・ネクサス・ジャパン理事長の天野慎介氏から「がん患者会がつながることの意味」と題した記念講演会も行われました。参加者からは、がん患者自身が声を上げていくことの重要性を強く感じたとの感想も聞かれ、ネットワークの必要性と今後の活動への期待の大きさも伺われました。事務局を担う宮城県がん総合支援センターとしても身の引き締まる思いです。同時に、これから患者会やサロン同士の連携が深まり、がんになっても安心して暮らせる社会が実現するための一翼を担えることは、大変意義深いことと思っております。

※『がん患者会・サロンネットワークみやぎ』の事務局は、宮城県がん総合支援センター（宮城県対がん協会内）が担当しています。

無料！「がんの悩みや不安を気軽に相談してください」“がん相談”のお知らせ

「がん総合相談」のご紹介　宮城県対がん協会のがん総合相談

宮城県対がん協会は、**医師による無料**の「がん総合相談」を行なっております。
ご家族の治療法や生活、セカンドオピニオンの受け方や患者の支え方など、ご本人やご家族のさまざまな悩み、不安、疑問などの相談に応じます。
完全予約制ですので、電話でお申込みいただき相談日を調整させていただきます。相談は面談方式で、時間はお一人様３０分までとさせていただきます。

相談は無料ですので お気軽にご予約ください。

宮城県仙台市青葉区上杉５－７－３０
お問い合わせ・予約申込　宮城県対がん協会
022-263-1525（平日10：00～17：00）
面談日時を調整させていただきます。

「がんなんでも相談」のご紹介　宮城県がん総合支援センター

宮城県対がん協会は、**専任の看護師による無料相談**「宮城県がん総合支援センター」を設置して、面談、電話、FAX、Eメールで対応しております。

○がんと診断された方の不安や問題に対して情報をさがすお手伝いをします。
○患者さんやご家族の方、医療関係者の方々、どなたでもご利用できます。

どんなお悩みでもかまいません。一度お電話ください。

【受付】
電話 022-263-1560（平日9:00～16:00）
FAX 022-263-1548
Eメール zaitaku-gan@miyagi-taigan.or.jp

ご寄付をいただいた法人・個人

2015年6月1日~2015年11月30日受付分
順不同・敬称略

■篤志寄付金

チバ器械株式会社、コセキ株式会社、石川広治、センター募金、阿部洋、石巻市婦連、石川司之、髙野光子、日本生命保険相互会社、一般社団法人宮城県ビルメンテナンス協会、渋谷大助

■特定維持会員

有限会社タニウチ印刷

■賛助会員（議会）

栗原市議会、多賀城市議会、石巻市議会議員会、登米市議員会、大衡村議会事務局、涌谷町議会、山元町議会、東松島市議会、利府町議会、大河原町議会議員互助会、村田町議会、七ヶ浜町議会、南三陸町議会、丸森町議会、名取市議会議員会、亘理町議会議員会、色麻町議会、美里町議会、柴田町議会、塩竈市議会事務局、富谷町議会事務局、松島町議会、蔵王町議会

大和町議会：今野善行、浅野俊彦、千坂裕春、渡辺良雄、松浦隆夫、門間浩宇、槻田雅之、藤巻博史、松川利充、伊藤勝、平渡髙志、堀籠英雄、髙平聡雄、馬場久雄、中川久男、大崎勝治、堀籠日出子、大須賀啓

岩沼市議会：大友克寿、櫻井隆、国井宗和、飯塚悦男

■賛助会員（法人）

株式会社白松がモナカ本舗、株式会社文化堂、松林商事株式会社、カメイ物流サービス株式会社、株式会社シーエス・オペレーションズ、株式会社西仙台ゴルフ場、有限会社アツミ自動車、株式会社羽田電機工業所、株式会社ダイコクヤ、株式会社三陸新報社、株式会社佐々直、株式会社三陸河北新報社、宮交自動車整備株式会社、気仙沼窯業株式会社、若生工業株式会社、志津川オリエント工業株式会社、東北総合信用保証株式会社、常盤洋紙株式会社、ダスキンタカハシ㈲TDC、熱海建設株式会社、株式会社イメージパーク、上西産業株式会社、カイリク株式会社、株式会社小山商会、株式会社佐藤製線所、塩釜商工会議所、株式会社東北プリント、株式会社リバーヴ、東興産機株式会社、仙南信用金庫、株式会社ショクテン、株式会社仙台カントリークラブ、ツバキ薬局、涌谷観光株式会社、宮城県自動車事業協同組合、東日本メディカルシステム株式会社、マルニ食品株式会社、株式会社あさの、宮城商事株式会社、有限会社おでん三吉、株式会社小田島、株式会社銀座薬局、東北特殊工業株式会社、株式会社藤崎、株式会社毎日広告社仙台、株式会社宮城テレビ放送経営推進部、株式会社ヨコハマタイヤサービス東北、株式会社石井組、青葉緑化工業株式会社、株式会社佐浦、公益社団法人仙台市防災安全協会、仙台弁護士会、医療法人みやぎクリニック仙台画像検診クリニック、株式会社渡會、クレア工業株式会社、弘進ゴム株式会社、塩野義製薬株式会社仙台分室、株式会社メガネの相沢、奥山工業株式会社、株式会社三株園茶舗、七十七コンピューターサービス株式会社、石巻信用金庫、大和証券㈱仙台支店、カメイ株式会社、仙台空港ビル株式会社、あすか製薬株式会社東北支店、東北インフォメーション・システムズ㈱、アルプス電気株式会社古川工場、日本製紙株式会社石巻工場、宮城県中小企業団体中央会、株式会社鐘崎、株式会社仙台放送、武田公認会計士事務所、東北福祉大学、常盤化工株式会社、松田産業株式会社、ワタヒョウ株式会社、石巻魚糧工業株式会社、有限会社上杉会計事務所、気仙沼商工会議所、宮城十條林産株式会社、出光リテール販売株式会社東北カンパニー、有限会社岩沼屋ホテル、仙台商工会議所、宮城中央ヤクルト販売株式会社、東日本興業株式会社、株式会社ひまわり薬局、古川商工会議所、仙台ガスエンジニアリング㈱、株式会社渡辺採種場、白石商工会議所、菅甚建設株式会社、石巻商工会議所、公益社団法人宮城県宅地建物取引業協会、仙台和光純薬株式会社、イシイ株式会社、仙台ガス保安工事株式会社、学校法人朴沢学園、宮城石灰工業株式会社、アステラス製薬株式会社、有限会社サトー孔版印刷

■賛助会員（医師会）

仙台市医師会：大山明、佐藤彰、伊藤益次、今井克彦、下田茂、公益財団法人仙台市医療センター仙台オープン病院、武山恒男、千葉守、武田鐵太郎、豊田隆謙、長池文康、町田晶子、宮田隆光、今井克忠、宮崎豊、丹野恭夫、酉抜和喜夫、北野原正高、井上廉、五十嵐稔、遠藤文雄、草野仁、小林正資、庄司眞、佐藤玄徳、齋藤親弘、社会医療法人康陽会中嶋病院、長島道夫、長谷川純男、星曠夫、山本敏行、妹尾重晴、新井宣博、医療法人岩切病院、医療法人松田会、加納一毅、結城道広、松尾兼幸、神裕子、笠井豊、医療法人社団仙台腎泌尿器科、及川浩助、古賀詔子、堀田髙秀、森元富造、湯村和博、今村茂、日向野修一、齋藤創、阿部慎哉、大澤寛寿、小野寺英朗、伊藤賢司、名倉宏、松原修二、西尾美栄子、相田光保、道又勇一、金原孝行、菅原比呂志、堀克孝、師研也、榛澤清昭、公益財団法人宮城厚生協会長町病院、佐藤信二、宮﨑敦史、東北公済病院、高橋秀典、馬場安彦、柿崎健二、清水雅行、目黒由紀、岡村けい子、髙橋克、中條仁、舟田彰、渡邊睦生、今野豊、山口尚、作山昌則、和田裕子、古川加奈子、長崎裕、一般財団法人厚生会仙台厚生病院、一般財団法人広南会広南病院、荒川雅博、独立行政法人地域医療機能推進機構仙台南病院、五十嵐章、猪股紘行、佐藤弘房、星宏紀、森俊彦、今村幹雄、津田克二、泉レディースクリニック、武者盛宏、南中山内科クリニック、松本文子、引地久春、山本冴子、高柳義伸、山口正人、大方俊樹、藤田直孝、仙台赤十字病院、北村龍男、佐藤茂、山形倫、佐藤亙、医療法人社団清山会いずみの杜診療所、角安雄、本島正、嘉数研二、吉田レディースクリニック、奥口文宣、結城豊彦、村口喜代、川島孝一郎、早坂得良、遠藤潔、黒澤光樹、阿部信彦、貝山仁、本田毅彦、曽根眞一郎、工藤洋平、医療法人ひろせ会広瀬病院、熊谷均、早川哲夫、濱田俊政、医療法人社団脳健会仙台東脳神経外科病院、綿谷秀弥、井上重夫、白根昭男、根本忠義、矢田部宏一、猪岡英二、仙台産業医科診療所、今井豪

白石市医師会：三浦義邦、浅野俊弘、梅津佳英、小松和久、公立刈田綜合病院、大泉記念病院

柴田郡医師会：太田繁興、安藤幹郎、大沼利行、佐藤和宏、平井完史、山家誠、みやぎ県南医療生活協同組合、安田京、河内三郎、佐藤俊夫、国民健康保険川崎病院、みやぎ県南中核病院

角田市医師会：高山敦、医療法人社団良仁会ウィメンズクリニック金上、安藤正夫、三浦徳之

亘理郡医師会：熊谷明、三浦俊治、木村洋子、三上雅嗣、山形成徳

岩沼市医師会：町田幸雄、青木恭規、有田大作、医療法人社団みやぎ清耀会緑の里クリニック、医療法人社団スズキ病院

名取市医師会：千田元、桑島一郎、佐藤滋、医療法人社団洞口会名取中央クリニック、田勢亨、金澤義彦、小林芳江、丹野尚昭

塩釜医師会：赤石病院、今井信行、岩井修一、氏家紘一、小野寺仁至、及川潤一、大井知教、金俊夫、齋恒夫、坂総合病院、塩釜医師会消化器部会、鈴木健史、関晴夫、関口淳一、医療法人寶樹会、高橋晋、高橋輝兆、冨永泰之、鳥越紘二、中山大典、林義峰、平澤善久、平澤内科、藤谷浩、本間正明、松下真史、松島病院、宮城利府掖済会病院、宮田正弘、無量井泰、山田耕道、山田憲一、渡辺広己、井筒憲司、薗部太郎、鈴木ヒトミ、渡辺孝志、遠藤英敬、小片邦穂、藤原竹彦、真栄平昇、横山義正、高橋裕一、角田和彦、小鷹日出夫、鈴木隆志、佐々木泰夫、大井嗣和、鈴木仁人、（医社）加瀬クリニック、医療法人ライヴスじょうなんファミリークリニック、杉山幸一、沖津尚弘、塩竈市立病院、藤野茂、池野暢子、鈴木室生

黒川郡医師会：医療法人社団清瑞会、遠藤敦、塚本耳鼻咽喉科医院、田山利幸、公益社団法人地域医療振興協会公立黒川病院、大塚庸一、吉永ひろ子

加美郡医師会：中川祐輔、及川正道、大山匡、加美郡保健医療福祉行政事務組合

大崎市医師会：木幡光彰、櫻井正徳、森啓之、三浦裕一、古川星陵病院、大久保孝一、高橋郁朗、有馬和夫、鎌田修二、小野貞文、渡辺麟也、千葉徹、沼田功、佐藤和朗、近江徹廣、小野寺敦、大崎市民病院岩出山分院、岩渕仁寿

石巻市医師会：阿部洋一、相沢正俊、伊藤健一、川村尚道、小林龍夫、佐藤信男、坂井武昭、髙橋邦明、舘田治、二宮健次、箕田紳一郎、矢崎重彦、田中典和、久門俊勝、川原田博章、舛眞一、千葉淑朗、荒井啓史、佐藤純、佐藤清壽、高屋りさ、山本博尚、石塚圭一、矢吹法孝、古山元之、千葉淳

栗原市医師会：佐藤自伸、宮城島堅、佐々木浩、三浦正明、栗原市立栗駒病院

登米市医師会：佐藤厚史、大坂國通、湊敬一、田中悟、二瓶次郎、菅原盛家、登米市病院事業管理者、登米市立よねやま診療所

桃生郡医師会：加藤玲子、伊東正一郎、櫻井忠実、河野秀信、宍戸友明
遠田郡医師会：野崎公男、袖井文二、熱海智章、佐々木和義、美里町立南郷病院
気仙沼市医師会：医療法人移川哲仁会三峰病院、遠藤紘、大里篤志、葛但寛、森田潔、大友亮、森良一郎、猪苗代盛貞、小髙庸一郎、気仙沼市立本吉病院、三条雅英、村岡正朗、小林直樹、笹原政美、菊地淳一、小松孝男、山本馨、猪苗代勇、鈴木裕道、あいざわクリニック、菅原大介

■みやぎよろこびの会

根元京子、川嶋國雄、伊藤寛子、佐々木春子、石川司之、石川りよ、萬里﨑吉政、大友キクエ、菅間和子、渥美和子、安達モト子、宍戸玲子、西條功、清野静子

■賛助会費（宮婦連）

多賀城市婦人会連合会：渡辺とめ、櫻井やえ子、酒井和子、赤井つや子、松田充子、平山千秋、星繁子、庄子よし江、平山照司、鈴木絹子、白濱宣子、稲葉愛子、田母神充代、堀米喜代子、千葉三津子、大友良子、伊藤マサ子、桜井昌子、鈴木誠子、小野くに子、門田昭子、西とし子、熊谷紀子、鈴木臣子、後藤愛子、後藤みよ子、笹原うた子、菊田百合子、武中悠子、江釣子真理子、阿部純子、渡辺あや子、鈴木文子、菊池キミ、根本菊江
若柳婦人会：上田泰子、菅原てるよ、長澤満喜子、阿部てつ子、高橋八重子、小野寺温子、千葉和子、三浦紀和子
女川町婦人会：横内静子、飯塚律子、阿部苑子、須田悦子、近藤くに子、岸サワ子、阿部けい子、小山栄子、高橋京子、伊藤文子、鈴木信子、東海久美子、遠藤悦子、勝又菊枝、木村佳代子、梁取礼子、阿部とまえ
大和町鶴巣婦人会：藤倉多香、小野啓子、馬場郁子
筆甫婦人会：目黒登美子
小斎婦人会：天野八重子
大張各種婦人会：大槻静江
米山婦人会：小松れい子、佐々木邦子、三浦きさ子、佐藤ヒサ子、髙橋ひさよ、橋本栄子、水野トヨ子、高橋チヤ子、後藤直子
岩出山婦人会：佐々木光子、高橋瞭子、飯田延子、加藤志美江、佐々木明子
千貫婦人会：吉田八重子、髙橋たづよ、大村純子、岩間かつ江、加藤ち江子
金成婦人会：千田京子
塩釜市婦人会：我妻キクエ、佐藤文子、中村和子、阿部かほる、小野和恵、阿部豊子、鈴木綾子、千葉栄子、鈴木禮子、田中さよ子、千葉知子、林富子、岩田みち子
宮崎婦人会：鈴木ちはや、石橋定子、米澤幸子
大郷町大谷婦人会：高橋一子、宮本なを子
金成婦人会：菅原かつゑ、石川セイ子、石川昌子、佐藤繁子
永野支部婦人会：佐藤ひさ代
岩沼婦人会：小関寛子、酒井美枝子、残間洋子、小貫英子、富沢令子
栗駒婦人会：千田かつみ、菊地壽美子、菊池清子、佐藤かち子、佐藤すみ子、阿部久子
花山婦人会：三浦妙子、及川喜留子、千葉妙子、千葉初枝、千葉和子
丸森婦人会：上村文子
利府町婦人会：伊藤きよみ、峯岸悦子、加藤祐子、遊佐和枝、西澤久子、伊藤みつ子、佐藤ちよ、渡辺悦子、千田多美子、堀越つめ子、板橋たみ子、永塚清子、永野茂子
大衡婦人会：遠藤つや子、堀籠幸子、崎山イエ子
松島町婦人会：後藤澄子、及川佳子、赤間昭子、櫻井寿美子、飯川ツル、横田きえ子、内海富子、内海美子、高橋きぬ子、村上和久子、高城尚子、鈴木紘子、櫻井貞子、丹野タキ子
角田市地域婦人会：鎌田三千子、森愛子、遠藤美代子、伊藤紀代子、菅原よし子、中畑繁子、玉手富美子、加川昭子、保志都、仙石茂子、保志とみ子、村上幸子
白石市地域婦人団体連絡協議会：阿部初子、大森りつ、吉川淑子、太田さき子
大和町吉田婦人会：堀籠さと子、早坂真知子、堀籠美江子
柴田郡婦連：佐藤トシ、竹野幸子、佐藤房子、水戸和子、遠藤勝江、八巻まし子、高橋敏子、森美子
松山婦人会：佐々木あい子、大友紀、川江礼子、小野政子、小関裕子、細川みどり、齋藤京子
名取市婦人会連合：渡辺勝子、三浦よね子、佐藤久子、本郷セイ子、江口清子、渡辺洋子、齋藤重子、高橋志津枝、大久あき子、高橋ケサエ、渡辺八重子、中澤直子、大友日出子、秋塲ふみ子、庄司俊子、守智恵、佐藤元恵、三浦妙子、武山みち子、佐々木可知枝
遠田郡婦連：瀧川澄江、大村涼子、寺尾登茂代、御守克子、相沢孝子、菊地千恵子、岡本とよ子
岩沼市玉浦婦人会：相原好子、桜井よしみ、冨田みや子
東松島市矢本婦人会：三浦絢子、阿部京子、相澤数子、奥田りえ子、戸田里、三浦亨子、菅原啓子、佐藤豊子、津田美枝子、佐藤多喜子、豊島敬子、五野井文子、菊地翼子、西潟寿美、浅野美枝子、田中敬子、木村久美子、木村礼子、後藤伊都子、佐藤すみ子
七ヶ浜町婦人会：鈴木弘子、鈴木洋子、稲妻真知子、伊丹はるの、佐藤民恵
白石市婦人会：栗原幸江、石川照代、吉野幸子、佐藤晴代、堀道子、宮本みつい、長谷川治子、村上たき子
色麻町婦人会：佐々木りえ子、佐々木やす子、斉藤都志子
大和町宮床婦人会：浅野よし江、浅田レイ子、貝田美喜子
賀美石婦人会：三浦満、千葉千恵、本多洋子
古川地婦連：大友富子、鈴木ゆう子、菅原末子、熊谷弘江、佐々木登貴子、岡本道子、永塚正子、西村信代、晴山たえ子、阿部みえ子、木村一枝、木村洋子、高橋輝美、佐々木之子、門脇宗子、鹿野孝子、紺野京子、高橋ますゑ、佐々木重子、我孫子妙子、三浦博子、菅原十四四、高橋せい子、佐藤とし子
西小野田婦人会：三嶋文子、高嶋信子、渡辺栄
鶯沢婦人会：小野寺美重、鈴木民子、髙橋ちよ子、髙橋龍子、千葉たつ子
東部分会：浅野ひろ子、菅原モリ子、佐々木和恵、石川とし子、三浦あいこ、蛯原京子
大内婦人会：森れい子、作間スエ子
荒浜婦人会：濱野かじ子、橋本かつ子、阿部みや子、宍戸都賀子、馬場道子、橋本貞子、佐藤冨美子、宍戸ひろ子、森恵子、永浜由紀子、渡部とし子
亘理婦人会：若松捷子、佐藤キクヨ、渡辺みつ江、高橋泰子、齋藤クニ、岩見富子、三戸部とし江、小野寺貞子、金澤桂子、太細日出美、戸引よし子、尾形ミエ子、相原成子、佐野みさゑ、佐藤照子、斉藤みよ、佐藤徳子
逢隈婦人会：八巻富士子、渡辺禮子、三品せつ、佐藤祐子、菱沼和子、三品美智子、猪股和子、渡辺芳、曳地陸子、斎藤多寿子
吉田西部婦人会：大槻かづ子、小野節子、大河原正子、松山芳子、安藤和子、大河原みつ子、玉田しげ子、安藤美重子
吉田婦人会：本間利子、齋藤かつよ、宍戸浩子、岩佐美津子、岩佐直子、千葉きよ子、齋藤律子、佐々木ミヨ、小野美佐子、鈴木好子、丸子きみ子、森美奈子、小野典子、小野礼子、篠正子、川崎カツ子
中田婦人会：三浦しん、佐藤頼子、五嶋敬子、佐藤千賀子、石川クニ子、堀内悦代、佐々木カジ子、畑山信子、佐々木やゑ子、野家範子、黒田容子、三浦テツ子、鈴木禎子、佐々木かつみ

■賛助会員（個人）

遠藤好英、郡山芳治、坂田雄一郎、本間基文、市川信昭、髙橋龍郎、岡嶋徹、髙橋正子、阿部はつえ、加藤静夫、猪狩惺、及川力、佐藤孝之助、内海春壽、菅原智恵子、亀山米子、皆瀬里美、黒川平司、中沢きく子、佐藤京子、我妻宗夫、荒木昭、稲垣晃、亀岡直樹、澤田幸男、佐々木勝子、曾根清秀、松坂英明、村上卓也、笹原啓子、高橋了子、三浦みよ子、阿部信子、阿部美津江、三浦たつ子・祐子、菊池世津、三島卓郎、小松亀一法律事務所、海川ヒデ、土井敏暉、安住泰子、渥美ヤエ子、山口正一、佐藤好子、齋藤多見恵、田中一寿、萩田みつ子、斎川二郎、加美ひさ、尾坂芳夫、山口正彦、髙橋敬一、阿部かしく、辻るみ子、鈴木八郎、岩田恒一、嶺栄松、紺野久子、安藤裕子、阿部英見、犬飼健郎法律事務所、阿部純二、越後愛子、木村冨士、佐野國男、菅井正治、亀山省吾、佐々木博司、佐々木健次、小林茂夫、阿部せつ、小野千代子、関口清、佐藤不二夫、鈴木ハツヨ、阿部美代子、久保田光子、阿部利子、嶋美香、高橋治、菅原傳、五島さよ子、桜田良子、後藤みよ子、藤代大、亀山喜美子、織田信夫、鈴木セツ子、若生則子、菊地章子、石黒典子、井上眞由美、高橋是清、布田直樹、斎藤淳子、湯田教恵、斉藤裕一、泉田京子、三部哲也、守谷崇、渡邊有、只野一宏、桃井貞夫

平成28年度「黒川利雄がん研究基金」
研究助成金希望者募集

この基金は、当協会の初代会長である故黒川利雄先生の遺志を継ぎ、がんの予防及び早期発見、治療に関する技術の開発等に係わる若手研究者に対し、研究助成を行うことを目的に平成元年に創設されました。
平成 27 年までに、109 人に対し 7,130 万円の助成金を交付しています。

1. 研究対象分野と応募資格

我国のがん予防および早期発見に関する技術の開発等、がん対策に係わる研究を行う 50 歳未満の個人および団体で、以下の研究分野を対象とする。

⑴がんの疫学および集団検診に関する調査・研究・開発　**⑵がんの早期発見および治療に関する調査・研究・開発**

2. 申請手続き

申請者は宮城県対がん協会の理事または、貴所属長の推薦を受けた者とする。

3. 応募件数および推薦件数

１個人・１団体または共同研究グループで１件とし、推薦件数も１人１件とする。

4. 助成金の額

助成総額は 220 万円とし、研究助成金１件あたり **100 万円**を限度とする。

5. 応募手続

応募希望者は下記宛に**ハガキ**または**ＦＡＸ**で申し込むか、当協会ホームページより**申請書類をダウンロード**の上申し込むこと。

〒 980-0011　仙台市青葉区上杉５丁目７番 30 号
公益財団法人 宮城県対がん協会　「黒川利雄がん研究基金」事務局　宛
TEL 022-263-1637　　FAX 022-263-1548　　http://www.miyagi-taigan.or.jp

6. 募集期日

【公　　募】 平成 28 年１月　【募集締切り】 平成 28 年３月末日

7. 発表交付

【発　　表】 平成 28 年５月　【交　　付】 平成 28 年６月

賛助会員(個人･法人の寄付)募集中

当協会では、がんに関する正しい知識の普及啓発、がんの早期発見・早期治療のための調査研究、がん登録管理等の事業を行っています。このような事業活動は皆様からの尊い寄付により支えられています。

なお、寄付金については**税制上の優遇措置**を受けることができます。個人の方の場合、従来までの「所得控除方式」に加え、新たに**「税額控除方式」**も適用されることになりました。確定申告の際にどちらかを選択して控除を受けることが出来ます。

《 寄付金の種類 》

- **賛助会員寄付**　協会の活動をご支援いただき、毎年ご寄付をしてくださる方
  - 個 人 会 員　　１口　1,000 円以上の寄付者（個人）
  - 法 人 会 員　　１口 10,000 円以上の寄付者（団体・法人）
  - 特定維持会員　　寄付金の額を定めて「がん征圧運動」に一層の協力支援をいただいている法人
- **篤志寄付**　協会の活動に対する一時的な寄付金
- **黒川基金**　黒川利雄がん研究基金のためと使用を指定した寄付金

がん征圧に向けた、あたたかいご支援ご協力をお待ちしております。
ご寄付のお申込、お問い合わせは下記までお願いいたします。

公益財団法人　宮城県対がん協会　法人事業課
〒 980-0011 仙台市青葉区上杉 5-7-30　TEL 022-263-1637　FAX 022-263-1548
ホームページアドレス：http://www.miyagi-taigan.or.jp